

出張報告

報告日 令和6（2024）年2月14日

会派名	社会クラブ・柏崎のみらい連合
報告者氏名	佐藤 正典、星野 幸彦
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 (<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察) <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	まちのブランディングと魅力の発信
日時	令和6年1月30日（火） 10:00～11:30
場所 (会場)	尼崎市役所 (兵庫県尼崎市東七松町1丁目23-1)
調査項目等	<ul style="list-style-type: none">・地域文化資産を中心とした観光地域づくり・居心地よく歩きたくなる駅前空間の創出
概要	<p>○市勢について 尼崎市は人口454,887人、面積50.71km²、コンパクトな市域に都市機能が集積しており、大阪神戸へのアクセスが良く、阪急・JR・阪神3社13駅を抱え、平坦で自転車の利用が多い地域である。</p> <p>○主な概要 「都市再生整備計画について」 阪神工業地帯に位置し、重工業が盛んであったため、治安が悪いことや公害の街であるといったイメージを払拭する取り組みの必要性から、観光への取り組みの強化を始める。観光に力を入れたのは平成25年に市役所内にシティープロモーション推進室を設置したことが始まりとなる。平成30年に設立された、「あまがさき観光局」が中心となり阪神尼崎駅周辺を観光の重点取組地域とし一体的な賑わいを創出している。</p> <p>○重点取組地域</p> <ul style="list-style-type: none">・阪神尼崎駅周辺（商業、城内、寺町、文化・公共）・中央公園リニューアル（阪神尼崎駅北側） 阪神電鉄が駅前の中央公園のリニューアル事業を行っている。また、重点取組地域内には尼崎城、中央商店街、戎神社、寺町などが密集している。・社会実験（歩行者利便増進道路） <p>○今後の観光振興の取組</p> <ul style="list-style-type: none">・ベイエリアの活性化、尼崎城×食、電子地域通貨 等 地域文化資産（尼崎城ほか）と商店街のイベントや情報発信を通じて活性化を図るとともに、駅周辺の特色を活かしリノベーションにより魅力を伸ばし、再生・活用・賑わい創出など、イメージ向上のための取り組みを行なっている。

【質疑・回答】

Q 1. あまがさき観光局と地域事業者や住民との関わり方について

A 1. 近年は「稼ぐ力」を意識しているので「経済」の部署で取り組んでいる。商店街や街づくりのキーマンや鉄道事業者や、金融機関とそれぞれ連絡を取り合っている。関係者の組織化も考えている。

・尼崎市内に13ある鉄道駅の周辺の特徴あるまちづくりのために既存の資源を活かし、多様な主体と連携して取り組んでいる。

・民間事業者や地域住民の動きにあわせて公共空間の利活用促進を通じて、協働する主体を見つけながら取り組んでいる。

・協働の例としては阪神出屋敷駅は地域住民の声から道路柵のペインティングイベントを行い合わせて出屋敷駅北緑地のリニューアルを行った。

・阪神尼崎駅中央公園の阪神電鉄リニューアルと周辺まち歩き連携。

・阪急塚口駅前の民間開発に合わせて街路等に歩行者滞在空間を創出。

・国土交通省の歩行者利便増進道路の事業を活用するために公共空間利用に関する「担い手」の醸成を目指して、駅前空間の新しい使い方を考える社会実験を複数回行い、公共空間活用に対して行政がどう関わるかを探っている。

Q 2. 公共空間利用の社会実験について

A 2. 社会実験として行っている阪急塚鉤駅前広場でのイベントは、現在は出店料無料で行っているが、この公共空間活用の「担い手」が醸成され、本格活用になった時は「担い手」に利益が出る形を目指している。



所 感 等

<佐藤 正典>

尼崎市は人口約46万人を擁する兵庫県の中核都市である。平成25年に「尼崎版シティプロモーション推進指針」を策定し、以来10年間にわたりシティセールスに取り組んでいる。この最大の目的は、従前から課題となっている子育て世代の転出超過への対応であり、若者の定住促進のための一つの手段がまちの魅力アップにある。

大阪・京都・神戸などへの交通アクセスが良く、そのために地価が高いことが若者の転出につながっているという市の分析だが、改めてそうした住みづらさといったイメージを解消し、まちの魅力を市民にPRしている。

シティプロモーションにおいては、行政のみならず、外部からの意見・評価を積極的に取り入れており、尼崎＝治安が悪いといったイメージを払拭し、脱炭素のまち＝クリーンなまちへのイメージ転換を進めている。行政

内部の体制としては、広報課が全体のイメージ戦略、都市整備部局がハード部分、経済観光振興課がシティプロモーションを担当し、行政全体で取り組む印象を受けた。

駅周辺開発に関しては、JR・阪急・阪神の13駅を有している。地域によって全く「色」が異なる特性を活かしながら、官主体というより、鉄道事業者や不動産事業者、民間などが先行する再開発に行政が加わる形である。

今回の視察において、尼崎市の人口規模やまちの特性などは柏崎市とは大きく異なるものの、しかし、人口減少や若者の流出といった共通する課題の解決に向けての、一つひとつの取り組みは、おおいに参考になった。

<星野 幸彦>

尼崎市は何と言ってもJRや阪神電鉄等、公共交通の利便性が良く、土地は平坦であり、市民の自転車利用が非常に目立っていた。人口は約45万人と兵庫県の中でも大きな市であり、市の北部は住宅街、中央部は商業地域、南部には工業地帯があり、大阪等へのベッドタウンとなっており、住みやすい街と言われ発展を続けている。それに加えて観光での集客の活性化への取り組みも10年ほど前から取り組んでおり、明治時代に廃城されていた尼崎城の再建を観光のシンボル（拠点）として活用している。

観光に関してはPRに力を入れると共に、訪れる人が最初に目にする『駅』の美観が重要であるとの考え方のもと、行政と住民が協力し取り組んでいた。

柏崎市においても行政や観光協会のみでの取り組みではなく、市民と協働していくと言う事について、大いに参考となった。

種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	議会質問 特別研修
日時	令和6年1月30日（火）14：00～1月31日（水）12：30
場所 （会場）	大阪市 リファレンス大阪駅前第4ビル
調査項目等	<質問聞き取り時の職員対応マニュアル> <質問本番の取り組み方>
概要	講師；宮本正一（日本公共経営研究所代表） 寝屋川市議会議員を5期20年務めた宮本正一氏による講義を受講 <質問聞き取り時の職員対応マニュアル> ・質問に対する聞き取りは、答弁の方向性を知ることと議員自身が執行部内に人脈を作ることを主な目的と考えるとよい。市役所職員それぞれの立場にも注視しつつ、ヒアリングを通じて関連部署との関係性を築くこと。 ・議員と自治体職員は、必要に応じて連絡できるように、相互の連絡先を把握し、関係性を持つことが大切。このことは、一般質問等に関してだけでなく、市民相談の際にも力強いホットラインとなる。また、当局との会派勉強会の開催は、行政執行部の考えを知る機会にもなる。

<質問本番の取り組み方>

- ・議事録に残ることを意識した質問を議会本番で行うこと。また、再質問を想定した準備も心がけておくこと。
- ・質問を行う際は、質問の目的を明確にする必要がある。そのためには質問の背景や関与する計画を整理したうえで、質問原稿を構成することが重要である。特に各自治体の総合計画との関連性について把握しておく。



<佐藤 正典>

一般質問の取り組み方についての研修を二日間、二時限にわたり受講した。テーマは「質問聞き取り時の職員対応マニュアル」「質問本番の取り組み方」についてである。

一般質問については、これまで議会運営委員会を通じ、「一般質問の在り方」を元に、いわゆる“ルール”を徹底してきたが、基本的なスタイルや組み立て、手法などは、過去の議事録や実際の議会における他議員の一般質問を見聞きしながら、自身で学び、研究し、行ってきた。

受講して印象に残った項目、内容は、「質問における論理構成」「総合計画との関連性を常に意識することの重要性」「一般質問は課題を検証して指摘すること」「議会質問の定型」などである。こうしたことを実践していけば、充実した一般質問が行えるとの講師談である。

今回の研修では、初めて一般質問について学ぶことができた。市民にわかりやすい質問、対応する当局が主旨を理解しやすい質問、そして、市民のために役立つ質問を今後行っていくために、大いに参考となる研修となった。

<星野 幸彦>

2日間にわたり、半日ずつのコマでの研修を受けたが、研修のテーマは『一般質問』の質問力についてであった。これまで私自身、初当選以来、毎回一般質問を行い、スタイル・展開・手法など我流で取り組んできたが、この研修において、改めて気付かされた事、学び活用できる事など、大いに参考となった。

特に『一般質問の木』と言う論理構成について、多くの議員は葉っぱの部分しか質問がなされていないと言う事の指摘であり、まず質問の背景を

『根』、総合計画などが『幹』、その後つなげて課題の検証が『枝』となり、やっとなら質問＝『葉』だと言う事理解である。こうした手法において、定型的に組み立てながら質問を行うことにより、充実した一般質問が出来上がるとの講師からの指導であった。半面、この研修を受けたことにより、議員の個性・スタイルが失われるのではないのかと言う懸念も感じた。

今回受講した研修において、今後、自分に活かせる部分を参考としながら、自分らしい『一般質問』を今後も継続的に休むことなく行っていきたいと思った。